

NAREC Newsletter

ナレック ニュース・レター

No.52
2016年夏号

環境再生事例 関東

練馬区稲荷山図書館の 「いきものの庭」

都市の小さな緑地をいきものと子供たちでにぎわせる

カテゴリ 自然環境



対象テーマ



1 なぜ、練馬の図書館の庭？



私が住む練馬区の緑被率は25%で、東京都23区内ではトップです。ところが、畑などの維持がしきれず、宅地化されていく傾向が止まりません。それでも、かろうじてパッチ状に残された50か所ほどの屋敷林などは「憩いの森」として区が保管理しています。

そして、練馬区の中北部に位置する稲荷山地区には、区内で最も広い「稲荷山憩いの森(2.2ha)」や23区内唯一のカタクリ群生地の「清水山憩いの森(0.8ha)」があり、これらの森に挟まれるように「稲荷山図書館」があります。この図書館は昆虫関係の専門書や児童書が多いことで全国的にも有名で、昆虫の専門家や同好者のみならず、多くの虫好きの子供たちが訪れます。図書館の庭は1000㎡程度の狭い緑地で、設立当初に昆虫を呼ぶ庭として造成をしたようですが、いつの間にか単純なササ藪になってしまいました。そこで、平成20年に、図書館の昆虫担当員を中心にわれわれ同好者が集まって「いんせくとかふえ」という団体を立上げ、図書館の庭を「いきものの庭」として再整備し、幼児が身近で「原体験」できるような庭づくりや「憩いの森」などでのいきもの観察会を始めました。

1. 練馬区稲荷山図書館の位置図
2. 周りにキャベツ畑が広がる稲荷山憩いの森

2 復元前のようす

「いきものの庭」の活動前



3

稲荷山図書館の庭は当初昆虫を呼ぶ庭として造成されながらも、平成19年当時はササ藪状態でした。一方、公益財団法人練馬区環境まちづくり公社に属する練馬まちづくりセンターでは、「いきものまちづくり」と称して、区内でいきものと身近に接することができるような場と機会づくりの調査・検討を始めていました。そこで、まちづくりセンターの専門研究員の方を「いんせくとかふえ」に招聘して、勉強会やワークショップを重ね、共同作業で図書館の「いきものの庭」活動の計画作りを始めました。

さらに、私は勤め先で、都市の小規模な緑地における生物多様性の評価手法について研究を始めました。その成果として、「HEALIN(ヒーリン)」という蝶や鳥などを呼ぶためのみどり創出プログラムを開発しました。HEALINは緑地の広さや草地・樹林などのバランスと、蝶や鳥が誘致される植物の多さをもとに計算される点数「ハビタット評点」にて緑地を評価し、植栽の種類などを選んで緑地を整備することによって生物多様性を高めることができるようにプログラム化したものです。点数が高いほどその緑地の多様性が高く、その結果生物多様性が高まることを意味します。

3 復元後のようす

「いきものの庭」の活動後



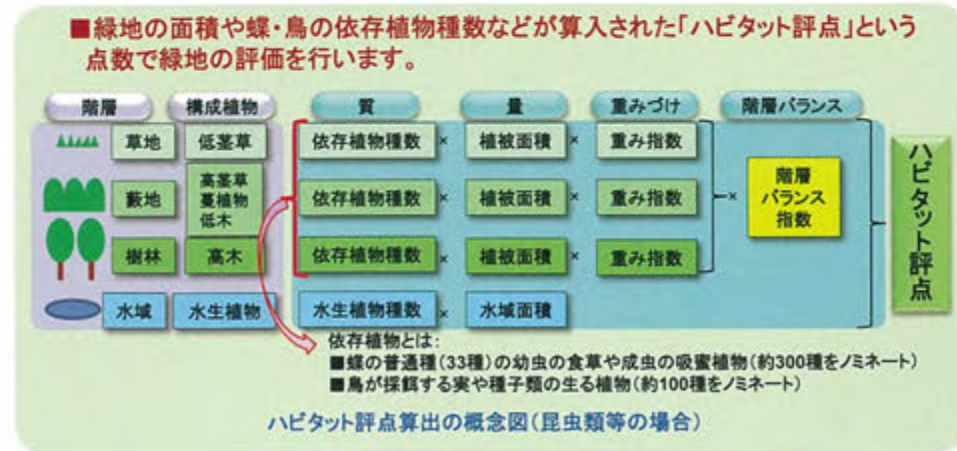
6

練馬まちづくりセンターの助成をもとに、「いんせくとかふえ」が中心となって「いきものの庭」の計画をすすめていきました。図書館をはじめとした諸団体みなさまの協力を頂き、参加者とともに「いきものの庭」を整備しました。はじめにササ刈りを行い、つぎに蝶の幼虫の食草や吸蜜植物などを植栽し、さらに落葉堆肥場や小さなビオトープ池などを作りました。その結果、庭が2つの「憩いの森」に挟まれているという立地も幸いし、庭には都市部ではなかなか見ることのできないモンキチョウ、カラスアゲハ、ジャコウアゲハ、ルリタテハ、ヒカ

ゲチョウ、オオミズアオ、ナガメ、カブトムシ、キボシカミキリ、トウキョウヒメハシロ、クロスズメバチ、ミカドトックリバチ、オオシオカラトンボ、ショウリョウバッタ、セスジツユムシ、ウスバカゲロウ、ニホントカゲ、ウグイス、コゲラ、メジロ、ヤマガラ、ツグミなどをはじめ、147種の動物が確認されました。評価に用いたHEALINによる生物多様性評価の結果では、同じ区内にある同程度の面積の緑地などと比較し、「いきものの庭」では多様性が著しく高いことが確認されました。

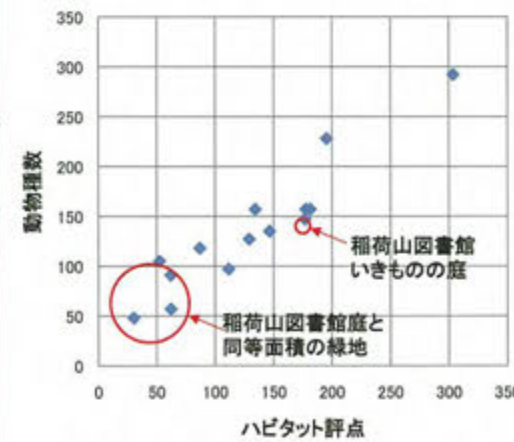


4



5

- 3. 活動前の稲荷山図書館の「いきものの庭」
- 4. 「いきものの庭」の計画概要図
- 5. HEALINによる生物多様性評価法の概要



7



8



9



10



11

- 6. 整備後の稲荷山図書館の「いきものの庭」
- 7. 生物多様性が著しく高い「いきものの庭」
- 8. ミニビオトープ池
- 9. カラスアゲハ
- 10. オオシオカラトンボ
- 11. ジャコウアゲハ幼虫

いんせくとかふえは “親子主体” がコンセプト



12

「いんせくとかふえ」による稲荷山での「いきものの庭」づくりの活動には大きな特徴があります。それは、「参加は親子で」ということです。つまり、「親御さんの目がまだ離せないような小さなお子さんが主役」をコンセプトの柱にしています。練馬区内には石神井公園や光が丘公園のように自然が豊かな都市公園のほかに、「憩いの森」などの良質な緑地が、ぶらっと歩ける範囲に散在しています。わざわざ遠くに行かなくても、幼児にとっては小さなダンゴムシと遊ぶことが、原体験そのも

のになり得ます。そこで、「いきものの庭」をつくる時も、「憩いの森」での観察会などのイベントでも、「いんせくとかふえ」の活動の企画案内チラシはいつでも「親子で・・・」となります。そのときの必需品は虫捕り用の網とかごです。親御さんも「都内でこんな自然体験ができるとは」と、お子さんよりはしゃいでしまうシーンも見かけ、こんなときは、企画の成功をメンバー間のアイコンタクトにより確信します。



13



14



15

- 12. 落葉堆肥場づくり
- 13. ササ刈りと蝶の食草の植栽
- 14. カブトムシゲット
- 15. 蝶の食草案内ラベル製作

活動のツールの 紹介



16

「いんせくとかふえ」では、親子が都内の緑地でいきものに関わる原体験をしてもらうための導入ツールとして、緑地のいきものしおりと紙芝居を製作しました。

これらのツールの製作等にあたっては、練馬まちづくりセンターの「まちづくり活動」の助成金を原資として、プロのイラストレーターやデザイナーにボランティア料金をお願いをしました。紙芝居に子供たちはかぶりつきで、矢継ぎ早の質問を浴びせ、紙芝居がなかなか先に

進みませんでした。また、いきものの庭の生物多様性評価に用いた「HEALIN」には、都市近郊の蝶の食草や吸蜜植物など約300種、鳥の食餌植物など約100種がプログラムにノミネートされており、既存緑地の評価のみならず、新たな緑地の植栽設計にも利用できます。さらに生物多様性を向上するための緑地の育成管理ガイドも組み込まれています。

① 緑地のいきものしおり

図書館に隣接する区内最大の「稲荷山憩いの森」にいる四季折々のいきものについて、マップ入りで紹介しました。



② 紙芝居

いきもの観察会などを始める前に、子供たちにその気になってもらうためのツールとして製作しました。小さな兄弟がいろいろところで虫や草花を見つけるようなストーリー仕立てで、一部がクイズ形式になっています。



16. いきもの観察会での説明風景

今後の展開と課題

17. 光が丘公園での活動団体とのクイズ大会
18. 稲荷山憩いの森でのいきもの観察会
19. 石神井公園での活動団体との
コラボ観察会
20. 稲荷山図書館の「いきものの庭」にて



17

「いんせくとかふえ」は、稲荷山図書館の「いきものの庭」を本拠地にして、近くの「稲荷山憩いの森」や「清水山憩いの森」での親子観察会などを継続してきました。また、練馬まちづくりセンターからの助成や、一般財団法人練馬みどりの機構など区内の諸団体とのコラボや活動協力を積み重ね、今では活動の範囲は白子川流域や石神井公園・光が丘公園など、練馬区内の全域に及ぶようになりました。活動のメンバーは昆虫類、鳥類、植

物などの同好者で、それなりの専門性を持っているので、観察会などで活躍できる人たちです。また、ほかの同様の団体に比べて特徴づけられるところは、「身近な生きものを介して幼少時の自然体験を促すこと」を、大きな目的に掲げていることです。これからも活動のコンセプトを守り、より多くの親子に体感してもらえるよう範囲を広げ、活動を継続していきたいと思っております。



18



19



20



小口深志 (おぐちふかし)
前田建設工業株式会社 技術研究所 技師長、認定
NPO 法人自然環境復元協会 副理事長、一般財団
法人練馬みどりの機構 理事ほか (2016年2月現
在)、博士(工学)、技術士(建設部門・建設環境)、
環境再生医(上級)ほか
1955年生まれ
●活動分野
- 緑化・生態系保全技術、水・土壌環境保全技術、
バイオマス等の資源利活用に関する研究開発

- 練馬区内の市民緑地の育成管理や生物調査・
観察活動

●主な研究発表・講演等

土木学会、環境資源工学会等の学協会での研究発
表や講演、団体法人主催の環境技術に関する講演、
ガイドブックやテキスト著書に関する講演ほか

●連絡先

〒178-0063 東京都練馬区東大泉 2-1-1-104

TEL: 03-5387-8284

E-mail: oguft5505@keh.biglobe.ne.jp